

### JS-3 大阪地区における潜水後の高所移動と標高

関藤 博史<sup>1)</sup> 宇佐美 健介<sup>2)</sup>

- 1) 大阪地区スキューバダイビング安全対策協議会
- 2) 有志ダイバー

潜水後の高所移動が発症の原因と考えられる減圧症は、東京医科歯科大の統計では6.1% (33/539) を占めると芝山正治教授 (駒沢女子大) が報告をしており、潜水後に高所移動ルートで帰路に着くことは、減圧症のリスクファクターと言っても過言ではない。

関東周辺における高所の場所は、1995年に芝山正治教授および山見信夫准教授 (東京医科歯科大) らが報告以降、次々と精度の良い標高マップが報告されてきた。各地区においてもダイビングスポットごとに調査されはじめているが、大阪地区の高所移動ルートは、未だ、十分に調査されているとは言えない。

安全潜水、事故防止および危機管理の観点からも、大阪地区における高所マップの作成は不可欠であり、我々引率者らの懸案事項であった。

今回我々は、有志ダイバーの協力を得て、主要ルートである『阪和自動車道路 (一部区間は「湯浅御坊道路」)』の「松原IC」から「みなべIC」までの約130km区間の海拔標高測定を行ったので結果を報告する。

また、『近畿自動車道』(吹田IC～松原IC; 約25km), 『西名阪自動車道』(松原JCT～天理IC; 約27km), 『名阪国道』(天理IC～亀山IC; 約75km), 『名神高速道路』(大津IC～吹田IC; 約40km), 『中国自動車道』(吹田IC～吉川JCT; 約40km) および『舞鶴若狭自動車道』(吉川JCT～東舞鶴IC; 約87km) についても現在調査中である。

### JS-4 北海道におけるダイビングの現状と課題 ～ダイビングの質の改善と事故防止を目指して、 地域特有の事故発生時のリスクについて

土田 浩人

北海道スキューバダイビング安全対策連絡協議会

北海道では現在札幌を中心とした都市型ダイビングサービス、ショップがおおよそ24軒あり、他に積丹半島、知床半島、支笏湖、道東、旭川、函館と1～2軒のサービスが点在する地域である。

北海道安全対策連絡協議会(以下SD)に加盟している団体は57団体であり、クラブ活動団体および潜水作業会社が他を占めている。大きく活動地域は積丹半島、道南、知床半島に分かれており、大半は札幌が近くにある関係で積丹半島に集中している。週末には200名を超えるダイバーがレジャー、講習で訪れる場所でもある。

現在SDにおいては安全潜水指針マニュアルの配布と事故発生時の安全対策ネットワークの小冊子を配布しているが、現在改定作業中である。現在の課題としては、配布小冊子が現場での対応にそぐわなくなっていることと、具体的な事故発生時の連絡体系がはっきりしないため、整理が急務である。また、近年中高齢者のダイバーが増加したことにより、水温が低いことなども理由に挙げられるが、突発的な心臓疾患により事故に結びついている事例も増加傾向にある。また、方向は違うが、ナマコの高騰により密猟者が増加しており、一般ダイバーへの締め付けも非常に厳しいことも見受けられるようになってきた。また、地域特有のリスクでは、流水ダイビングがメジャーになっており、近年事故も発生しており、流水ダイビングのスタンダードの作成も検討していかなければならない。